

多摩消防団だより

第21号
平成30年8月吉日
発行 多摩消防団広報部
印刷 井上印刷所

ご挨拶



多摩消防団 団長
井田 哲芳

平成三十年度を迎え、四月七日に昨年度退団者、昇任団員、新入団員に辞令を交付しました。

今年度退団される皆様、長年の消防団活動、大変ご苦勞様でした。心より感謝申し上げます。

新入団員の皆様、訓練を重ねていち早く活躍できる様、期待しております。

さて、今年度は多摩消防団に初めて、女性消防団員が一三名入団しました。女性消防団員の入団により、災害時の女性的ケアや繊細な心配りなど、さらなる消防力の強化を期待しております。

初めてのことで手探りの部分も多くありますが、みなさんが活動しやすい組織づくりを進めていきたいと考えております。

結びになりますが、これまで、大きな事故もなく消防団活動に邁進できましたのは、消防団員やそのご家族の皆様、多摩消防署を始め関係各機関のご協力の賜と、心から感謝申し上げます、挨拶と致します。

ご挨拶



多摩消防署 署長
白石 与志夫

多摩消防署長の白石でございます。

多摩消防団の皆様には、日頃から消防行政の推進と当署の事業に対しまして、格別なるご支援とご協力を賜り、心から感謝申し上げます。

東京二〇二〇オリンピック・パラピピック競技大会を迎えるなか、近年の気象変化に伴う局地的大雨などの自然災害や、発生が危惧される首都直下地震など、区民の皆様の安全安心に対する関心は高く、地域に根ざした消防団へ寄せられる期待も、より一層大きくなっております。

消防団におかれましては、災害から区民の皆様方の生命と財産を守り、区民の災害対応機関として不断の備えを万全にされ、地域防災のリーダーとして活躍されますよう、お願い申し上げます。

終わりに、多摩消防団の限らないご発展と、団員各位ならびに、ご家族の皆様のご健勝を祈念申し上げます、挨拶と致します。

多摩消防団発足50周年

辞令交付式

四月十八日、多摩消防署講堂にて、辞令交付式が行なわれました。稲田分団は新体制となり、新班長ならびに十名の新入団員に対して、また多摩区初の女性消防団員一三名に対して、井田哲芳団長より辞令が交付されました。また、退団された方々にも辞令が交付されました。永年にもわたり、誠にありがとうございました。



多摩消防団役員と新入団員の方々

稲田分団新入団員

菅班

中野島班

登戸班

宿河原・堰班

長尾班

上原 達也
原島 隆洋
須田 啓介
石黒 彰則
生方 智樹
松坂 武健
関山 文文
関山 健藏
鈴木 信夫
矢嶋 伸一郎

狛江市総合水防訓練

五月十三日、狛江市側の多摩川河川敷において、狛江市総合水防訓練が行われ、昨年に引き続き多摩消防団、多摩消防署が参加しました。

訓練では、土のう積み工法など水害時の防災技術等を学び、狛江市との連係を確認しました。



消防団用機械器具等性能検査

四月十四日、川崎市消防訓練センターにおいて、性能検査が行われました。多摩消防団各班が、車両、器具等の動作



や破損、故障がないか一つ一つ確認しました。毎年、年度初めの行事として、消防活動に大切な道具の点検を、気を引き締めて行いました。



稲田分団操法大会



五月二十日、多摩川河川敷にて、稲田分団操法大会が行われました。稲田分団操法大会は、小隊訓練と小型ポンプ操法の二部構成で行われます。

小隊訓練では、各班指揮者の号令の下、消防団員の基礎となる様々な動作を行いました。小型ポンプ操法では、総勢八チームが演技を披露。当日は強風ということもあり、火点を倒すのに苦労している班も見受けられました。日頃の訓練の成果を堂々と発揮しました。



多摩消防団消防大会

五月二十七日に明治大学生田キャンパスにおいて、第十九回多摩消防団消防大会が行われました。前年度大会よりも早い時期の開催となり、各班から選抜された九隊が小型ポンプ操法の演技を行いました。

- 優勝 生田分団 東生田班
- 準優勝 稲田分団 中野島班
- 三位 稲田分団 宿河原・堰班
- 優秀選手賞 宿河原・堰班 川口 源次郎
- 一番員 中野島班 古谷 和之
- 二番員 中野島班 石井 正宏
- 三番員 登戸班 齋藤 彰



多摩消防団

女性消防団員 始 動

平成三十年四月七日、多摩消防団に初の女性消防団員(十二名)が、任命されました。初年度の活動として、広報活動や防火パレード等を通じての火災予防、防火警備を行います。消防の知識を学んで、地域の消防活動の担い手になればと思います。



優勝班

東生田班 班長 古谷典久

第十九回多摩消防団消防大会で、生田分団初の優勝を成しとげることができました。そして今回、東生田班が強豪の稲田分団を抑え、優勝するまでには、色々な苦勞、道のりがありました。

ひとつに「真剣に取り組めば優勝も夢じゃない」と班員の意識を変えてくれたある指導者の力がありました。自ら訓練場所の確保や、選手達の手本となるよう操法の技術を学びに他の班に出向き、色々と工夫をこらした指導の末、順位が毎年徐々に上がり、今年遂に優勝することができました。選手達もとても熱意を持って取り組んでくれて、約二ヶ月間、週二、三回の訓練でスピード、節度に磨きをかけてくれました。

また来年も優勝できるように団員一同気持ちを一つにして臨みたいと思います。

結びに、訓練場所を提供してくださいました川崎国際ゴルフ場の皆様、東生田班OB、団員のご家族、お知り合い、そしていつも応援してくださいます、東生田町会連合会の皆様、誠にありがとうございました。

指揮者 宿河原・堰班 川口源次郎

今年チームを結成してからもなくイレギュラーの連続で、大会一週間前までご迷惑がございましたが、指揮者としては不安だらけでした。しかしそんな自分を支えてくれたのは、やはりチームのメンバー。もちろん、いちから丁寧に指導して下さった指導者、献身的にサポートして下さった諸先輩たちにも、心から感謝しています。

でも、今回はチームとして取ったものと思っています。本当にチームのメンバーには感謝しかありません。

一番員 中野島班 古谷和之

目標としていた、同番手で三年連続の個人賞という輝かしい成績を取られました。班としては、昨年は一位とは数点差の三位。今年は、その差を埋めるため、連日連夜、操法訓練に励み、日々精進して参りました。しかし結果は二位。来年こそはと、今から意気込んでおります。

これまで指導くださったOBの皆様や班員、そして何より理解のある地域の皆様、応援していただき誠にありがとうございました。今後も消防訓練に日々励み、地域防災の向上のために全力を尽くします。



初優勝 生田分団 東生田班

二番員 中野島班 石井正宏

私は消防団に入ってから、操法に関しては二番員をやっていました。今年の大会は、班長の意向もあって、私が初の多摩大会のメンバーに入りました。今期は訓練日数が十六日なので、とにかく体調管理をしっかりと思いつつながら訓練に臨みました。正直、訓練は大変でしたが、指導員の方が本当に私の至らない所を的確に指導してくれたおかげで、初の大会で個人賞が取れたと思います。指導員始め、班員の皆に感謝します。ありがとうございました。

三番員 登戸班 齋藤彰

今大会は開催が早まったこともあり、登戸班では三月下旬から訓練を始めました。訓練序盤は寒い日もあったので、体調管理に気をつけました。三番員としては二度目でしたので、前回の反省を踏まえ、先輩方の指導を頂きながら、細かい箇所に注意して訓練に臨みました。その積み重ねの成果もあり今回個人賞を受賞することができてもうれしく思いました。何より火災や災害時に訓練の成果が発揮でき、人の役に立てるよう日頃の消防団活動に取り組みたいと思います。

祝 平成三十年春の叙勲
多摩消防団元団長 松澤忠志氏
瑞宝双光章 受章



この度、多摩消防団元団長松澤忠志氏が、長年の消防団活動の功績が認められ、瑞宝双光章を授与されました。誠にありがとうございます。

『受章のご挨拶』

謹啓 皆様には益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて私ことこの度、平成三十年春の叙勲に際しまして、はからずも瑞宝双光章受章の栄に由り、去る五月十四日、家内共々皇居に参内し、豊明殿に於いて天皇陛下に拝謁し、お言葉まで賜りました。

これもひとえに、皆様の長年にわたる心温かいご指導ご支援の賜物と、深く感謝を申し上げます。

今後とも、感謝の気持ちを忘れずに、いささかなりとも、ご芳情に報いたいと存じますので、相変わらぬご厚誼、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。末筆ではございますが、皆様のご健勝、ご多幸を心から祈念申し上げます、御礼のご挨拶とさせていただきます。

松澤忠志 謹白

川崎市消防団操法大会

六月二十四日、川崎市中央卸売市場北部市場にて、平成三十年度川崎市消防団操法大会が行われ、時折激しい雨の降る中、市内八消防団の代表十六チームが小型ポンプ操法の技術を競い合いました。

多摩消防団からは、稲田分団宿河原・堰班と生田分団大作班の二チームが出場しました。日頃の訓練の成果を発揮し、レベルの高い争いになりましたが、中原消防団大戸分団が最優秀賞に輝きました。そのなかで、宿河原・堰班が見事優秀賞に輝き、大作班も健闘しました。



稲田分団 宿河原・堰班 班長 柿崎 智幸

四月から始まった夜間訓練、多摩区大会前に数名のけが人がでて、選手選考に大変悩みました。市大会への出場が決まり心身ともにポロポロになりながらも、選手は勿論、班員全員が厳しい訓練を耐えてくれました。

当日、選手には「自分たちがやってきた事が間違いないことを見せてやりましょう。」と送り出しました。結果、稲田分団代表として優秀賞を頂くことができ、見事に応えてくれたと自負しています。そして、班員全員一丸となり成し得たこの結果を誇りに思います。

この誇りを胸に、今後の消防団活動の糧にして、地域防災の一役を担って参ります。応援ありがとうございます。

稲田分団 宿河原・堰班 指揮者 川口 源次郎

悲願の優勝とはいきませんが、準優勝(優秀賞)は非常にうれしく思っています。指揮者として頼りない部分が多かったと思いますが、付いてきてくれた選手には感謝しています。また、この功績は選手の頑張りとは勿論ですが、班全員の気持ちと同じ方向にむいていた結果、班全員で取れた賞だと思っています。



稲田分団 宿河原・堰班 一番員 吉場 保

私は、今回で二度目の市大会の選手として出場しました。班員、OBの方々色々なアドバイス頂き、訓練を精一杯に取り組んだ結果、優秀賞を取ることができました。大会当日は、あいにくの天候で足下が滑りやすく、神経を使いましたが、全員が訓練の成果を出すことができました。関係者の皆様に感謝を申し上げます。

稲田分団 宿河原・堰班 二番員 大貫 晃弘

市大会当日は、とても緊張しましたが、競技が始まり訓練の成果を出すだけだと思いついた時の安堵感、そして結果よりも達成感に満足しています。訓練期間中はたくさんの人達に支えて頂き、とても感謝しております。ありがとうございます。

稲田分団 宿河原・堰班 三番員 須賀 大元

今回、初めて市大会に出場しました。雨の中の操法でしたが、今までの訓練を信じ一人一人がチームを思い、力を出せた結果でした。指導して頂いた先輩方、チームの仲間、そして消防団活動を理解しサポートしてくれた家族、仕事仲間へこの場を借りて感謝とお礼を申し上げます。ありがとうございます。

宿河原・堰班 第二位



編集後記

第二十一号「多摩消防団だより」発行に際しまして、ご協力頂きました皆様には厚く御礼申し上げます。

生田分団 大作班 班長 鈴木 勉

入団して、市大会は二度目となります。生田分団は市大会は持ち回りで、一度目の時は入団して間もなかったので、選手ではなく補助員でした。右も左も分からず手伝いの記憶しか残ってなく、どんな操法だったか覚えていません。今回は、班長として多摩大会への二ヶ月、その後市大会へ向けての一ヶ月の訓練で、他の班の方との交流と激励をいただき今までの経験ができました。また団員にも今までにない行動ができるようになりました。本当に感謝しています。

この経験を生かし、この地域での防災活動に、より一層の尽力を注ぎたいと思います。

平成三十年度 全国統一防火標語

『忘れてない？
サイフにスマホに火の確認』

多摩消防団 広報部

- 本団 広報部長 石川 秀明
- 生田分団 部長 藤井 修二
- 稲田分団 部長 平糠 毅
- 生田分団 団員 岩崎 重雄
- 生田分団 団員 松澤 大地
- 生田分団 団員 荒井 大稔
- 生田分団 団員 大木 康弘
- 生田分団 団員 飯沼 康祐
- 稲田分団 団員 田村 英喜
- 稲田分団 団員 鈴木 賢司
- 稲田分団 団員 田中 大輔
- 稲田分団 団員 細田 知良

お悔やみ

第二代多摩消防団 団長 井上昭一氏は平成二十九年十二月三十一日にご逝去されました。ご生前の消防活動に敬意を表しますとともに今後の多摩消防団の発展に努めて参ります。心よりご冥福をお祈りいたします。